

月

影



第62号

平成三十年九月三十日発行

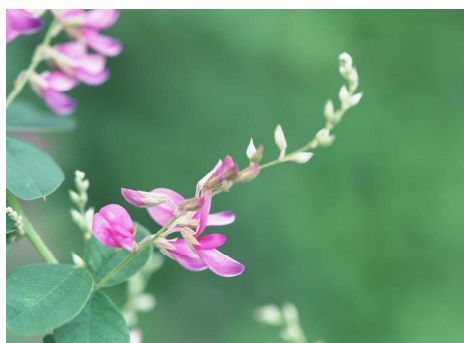
浄土宗西山禅林寺派

常林院

父に酒

母におはぎの

彼岸かな



悩み苦しみがある

この世は此岸（しがん）

悩み苦しみが無い

お浄土は彼岸（ひがん）

自分を想うより

他人を想い

他人を想うために

自分を想う

自他を大切に想うとき

心は満たされ

彼岸に到る

仏さま 巡礼



普賢菩薩

白い象に座る菩薩

白い象に座る普賢菩薩（ふげんぼさつ）は、獅子にのる文殊菩薩（もんじゅぼさつ）とともに、お釈迦様の脇侍を務める菩薩です。

サマータブドラを漢訳して普賢（ふげん）といい、普遍の法門（仏法の教え）という意味です。

行の菩薩

「智慧」の文殊菩薩に対し、「行」の普賢菩薩といわれ、「智慧」と「行」両方がそろって仏教の理想が実現すると考えられました。

普賢菩薩は、時を選ばずあらゆる場所にあらわれて、人々に仏法の教えを説き、自分の行いを悔い改める者を救い、法華経の信者を守る菩薩です。

普賢菩薩の姿

多くは白い象の上の蓮の台に座り、合掌している姿であら



わされます。

法華経を信仰する人々が拝む仏像の他、釈迦如来像の脇侍菩薩として文殊菩薩とともに造られることが多くあります。脇侍菩薩の時は、合掌していません。

女性の信仰集める

「法華経」に、六本の牙（きば）をもった象に乗った普賢菩薩が大勢の菩薩を連れて信者の前に現れて、利益を授けたとあります。法華経は女人往生を説いているところから、平安時代以降、女性の信

仰を集めました。

十羅刹女

普賢菩薩の信仰の一つとして、十羅刹女（じゅうらせつにょ）の信仰があります。羅刹（らせつ）とは鬼のことで、十人の鬼の女を意味します。もともと人を喰らう悪い鬼だったので、仏教に深く帰依し善神になったそうです。普賢菩薩が十羅刹女をとまっていた図や彫像が多く造られました。



常林院だより

彩寺記

お施餓鬼せがき

八月十六日。お盆最後の行事である「お施餓鬼」の法要を勤めました。

法要前に突然の夕立に見舞われましたが、多くの方にお参りしていただきました。申し込みされた方、永代祠堂・永代供養をあげておられる方、初盆を迎えられた方の水塔婆回向をして、皆さんにお焼香をしていただきました。

今年も参詣者の皆様と共にご先祖さまを再びお浄土へお送りし、お盆の行事が終わりました。



施餓鬼法要中

永観堂だより

入山式にゆうざんしき

去る六月七日。永観堂禅林寺第九十一世、久我儼昭管長げいか 猊下の入山式が厳修されました。

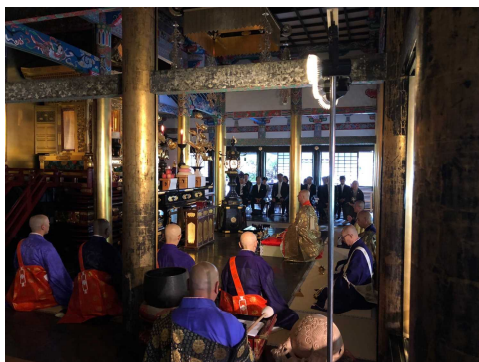
入山式の「山」は、お寺の意味です。つまり、管長として永観堂に入る儀式のことです。

当日は、永観堂近くの役宅から総門をくぐられ、ご本尊みかえり阿弥陀如来様がおられる阿弥陀堂まで行道されました。阿弥陀堂で読経し、たあと大殿へ移動し、入山の疏を拝読され、

入山の決意を表明されました。

関係寺院、御親族が見守る中、滞りなく式を終えられました。

十月には、晋山式が執り行われます。宗派内の寺院・総代、また、他宗派寺院など、多数出席される予定です。



阿弥陀堂での法要

仏教歳時記



秋彼岸 母の遺せし 鯨尺

藤井達男

※鯨尺（くじらしゃく）…和裁用のものさし

ご先祖を想うお彼岸

秋分の日を中日として、前後三日間の一週間を秋彼岸といいますが、春分の日を中日とした一週間は春彼岸と呼ばれます。

「彼岸」という言葉は、悟りの世界を意味します。寺院では彼岸会の法要が営まれ、お墓参りをしてご先祖供養を行います。



雑記抄

紅葉の条件

彼岸が過ぎると、暑さも落ち着き、そろそろ紅葉の話題が出る頃です▽綺麗に紅葉するには三つの条件がいるそうです。①日中天气がいいこと。赤い色素となる糖分は光合成によって作られます②雨や水分が適度にあること。乾燥しすぎると葉が紅葉する前に枯れてしまします③昼と夜の寒暖差があること。夜の気温が高いと昼間作った赤い色素になる糖分を使って活動するので赤くなりません。昼と

夜の寒暖差がある方が糖分を使わず綺麗に紅葉します。最低気温が八度以下になると紅葉が始まり、朝の最低気温が五度以下の日が続くと、最も美しい紅葉が見られると言われています▽この三つの条件によって、綺麗に紅葉するかどうかが決まるそうです。モミジも良いご縁（条件）にめぐり合うことが大切なのです。

